# 作業適用学演習

［演習］　第２学年　後期　必修　1単位

《担当者名》鎌田樹寛　t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp

【概　要】
本授業は、DP3に該当する科目である。具体的には、作業療法の中核的概念である「人の作業」についての深い理解を得るため、大きく2つのパーツで構成されている。①前半（1～6回）では、"作業的存在"に対する講義や演習（グループ討論や具体的な評価法を用いた情報収集や分析結果・解釈に基づくレポートを作成すること）である。②後半（7～15回）では、アメリカの作業療法に関する歴史分析に基づく哲学や理論化（科学的思考や学際的視点）への変遷を紹介することを通して、主として「作業行動理論・人間作業モデル」の概要を学ぶ。

【学修目標】
一般目標
作業療法における中核概念である「人の作業」について深い理解を得るため、作業の定義・分類、作業的存在の理解、作業の影響力などに関することを、講義や演習を通して学修する。また、作業療法の歴史的変遷（アメリカ）を分析した文献を基にして、作業療法の理念や理論化（科学的思考や学際的視点）を学び、専門職としての同一性を知る。
行動目標
1．人の作業の定義と分類について、説明や解釈ができる。
2．作業的存在について、説明や解釈ができる。
3．作業の影響力について、グループ討論を通しながら説明や解釈の仕方を身に付けることができる。
4．自らの作業的存在に関して、グループ討論を通しながら説明や解釈の仕方を身に付けることができる。
5．他者の作業について、情報収集から結果・解釈に基づくレポートが書ける。
6．作業療法の理念（哲学）や理論化（科学的・学際的視点）の成立について、説明ができる。
7．作業行動理論・人間作業モデルの概要について、説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 作業の定義や分類<br>作業的存在について① | 1．作業の定義、分類について理解を深める。<br>2．人の人生や生活が様々な作業から構築されていることや作業が生活の中に深く織り込まれていることを理解し、人が ” 作業的存在 ” である視点について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 2 | 作業的存在について②<br>作業の影響力 | 1．人が ” 作業的存在 ” である視点について学ぶ。<br>2．障害を持ちながらもいきいき暮らす人々を紹介し、そこに表れた作業の影響力について、グループ討議を通して、作業の側面から個人や組織・社会を変え得る力を理解する。 | 鎌田樹寛 |
| 3 | 作業的存在としての自分の理解① | 自らが作業的存在であることについて、作業質問紙や作業バランス自己診断を通して、自己評価を行い「作業バランス」や「習慣」について、理解を深める。 | 鎌田樹寛 |
| 4 | 作業的存在としての自分の理解② | 1．自らの興味や役割について、NPI・興味チェックリストや役割チェックリストを用いて分析を行い、興味・役割の数やその傾向等をこれまでの発達過程も含めて理解を深める。<br>2．自らが作業的存在であることを深めるために、実施した評価結果をまとめ・考察し、グループ討論に備える。 | 鎌田樹寛 |
| 5 | 作業的存在としての自分の理解③ | 第3～4回の内容に関して、客観的理解を深めるために、グループ討論を通して、自らの結果を考察しながら、メンバー間に共有されたプレゼン資料を作成する。 | 鎌田樹寛 |
| 6 | 作業的存在としての他者の理解 | 1．自らに関する作業的存在を意識できたことを踏まえ、他の学生に対して、その人の作業を中心としたインタビュー（作業歴）を試みる。<br>2．また、作業を中心としたインタビュー（作業に関する自己評価；OSA-Ⅱ）を試みる。<br>3．上記のことを踏まえ、自分以外の人を作業的存在として、評価、解釈できることをレポート作成を通し | 鎌田樹寛 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| | | て学ぶ。 | |
| 7 | 作業療法の歴史分析（哲学）① | 作業療法の成立に関して、その歴史的背景（アメリカ）「作業療法の哲学（アドルフ・マイヤー）」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 8 | 作業療法の歴史分析（哲学）② | 作業療法の成立に関して、その歴史的背景（アメリカ）「作業療法の哲学（アドルフ・マイヤー）」から生じた「作業パラダム（主観的側面の重視）」の内容について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 9 | 作業療法の歴史分析（哲学）③ | 作業療法の成立に関して、その歴史的背景（アメリカ）「作業療法の哲学（アドルフ・マイヤー）」から生じた「作業パラダム（主観的側面の重視）」の内容について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 10 | 作業療法の歴史分析（理論化；「科学的・学際的思考」）④ | 歴史的背景（アメリカ）とした、次のパラダイムシフト「機械論パラダイム」と「同一性の危機」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 11 | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）① | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）変遷に関して、作業パラダムの現代化に通じる「作業行動理論」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 12 | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）② | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）変遷に関して、現代のパラダムに通じる「人間作業モデル」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 13 | 作業療法の理論化（科学的・学際的思③ | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）変遷に関して、現代のパラダムに通じる「人間作業モデル」」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 14 | 作業療法の理論化（科学的・学際的思④ | 作業療法の理論化（科学的・学際的思考）変遷に関して、現代のパラダムに通じる「人間作業モデル」」について学ぶ。 | 鎌田樹寛 |
| 15 | まとめ | 講義全体のまとめと振り返りは、”人の作業に関する視点や観点”について、質疑討論形式を通して深め、作業療法士としての同一性を学ぶ。 | 鎌田樹寛 |

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
1．授業回数1-6回までのグループ討論（プレゼン資料）やレポート課題　30%
2．授業回数7-10回の内容を踏まえた、まとめとしてのレポート課題　20%
3．授業回数11-15回までの筆記試験　50%
・レポート課題の成果確認については
①　講義に合間に共通することをフィードバックする。
②　担当教員の研究室やmanabaにおいて、模範となるレポート閲覧を可とする。

【教科書】
ギャリー・キールホフナー（山田孝監・訳）　著　「作業療法の理論原書第3版」　医学書院　2008年
適宜資料を配布する。

【参考書】
吉川ひろみ　著　「「作業」って何だろう」　医歯薬出版　2008年
吉川ひろみ　著　「「作業」って何だろう第2版」　医歯薬出版　2017年
レニー・R・テイラー（山田孝監・訳）　著　「キールホフナーの人間作業モデル改訂第5版」　協同医書　2019年
秋元波留夫・冨岡詔子　編著　「新作業療法の源流」　三輪書店　1991年
R Zemke・F Clark（佐藤剛監・訳）　編著　「作業科学-作業的存在としての人間探究-」　三輪書店　1999年
葉山靖明　著　「だから、作業療法が大好きです」　三輪書店　2012年

【備考】
・質疑応答、感想等のフィードバックはmanabaを活用する
・レポート模範例の公開は、対面やmanabaを活用する

・配布資料等は、manaba上にもアップする

【学修の準備】
・授業回数1～6回では、事前の配布資料や課題内容を熟読して、実際に取り組めるように準備すること（準備時間80分）。
・得られた結果から、その解釈や判断を行うにあたり、必要があれば担当教員に参考書等を尋ねること（80分）。
・レポートの記述については、前期導入科目「文章指導」の知識を実践できるように復習すること（80分）。
・授業回数7～15回では、配布資料と教科書や参考書で予習・復習すること（各80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】
作業療法士

【実務経験を活かした教育内容】
医療機関での実務期間（19年）の経験を活かし、「人の作業」の広さや深さに関して、”作業的存在”の視点を利用・活用しながら、具体的なテーマや課題を通した講義や演習(グループ討論や評価面接からのレポート課題）を用いて理解を促す。